

営農情報（小麦）

第46号 令和3年10月27日

福岡大城農業協同組合

南筑後普及指導センター

1 排水対策

小麦は湿害に弱く、排水不良田では根傷みや生育ムラ、枯熟れ等の原因となります。安定生産に向けて、周囲溝や枕地作溝等の**表面排水対策**と本暗きょや弾丸暗きょによる**地下排水対策**を組み合わせ実施し、排水対策を徹底します。

また、表面排水対策は、枕地で滞水しないよううね溝を排水口までつなぎます。

2 土壌改良資材の施用

小麦は酸性に弱く、土壌pHが低いと生育および収量・品質が低下します。そのため、下表を参考に土壌改良資材を施用し、麦の**高品質・安定生産**に努めます。

また、地力維持および人と環境にやさしい農業の推進のため、稲わらは焼却せずにすき込みます。

施用効果	資材名	施用量(10a当たり)
酸度矯正	生石灰	100kg
	苦土石灰	200kg
	オイスターミネラル	100kg~200kg

3 種子消毒

裸黒穂病やヤギシロトビムシ等による被害を防ぐため、種子消毒を徹底します。ベンレートTコートとアドマイヤー水和剤での種子消毒を基本とし、ヤギシロトビムシ多発田ではベンレートTコートとクルーザーFS30での種子消毒を実施します。

薬剤名	対象病虫害	処理方法
ベンレートTコート	裸黒穂病等	種子10kgに薬剤50gを乾粉衣する
アドマイヤー水和剤	ヤギシロトビムシ	種子10kgに薬剤15gを乾粉衣する
クルーザーFS30	ヤギシロトビムシ (多発田)	種子10kgに薬剤60mlを塗沫する

※クルーザーFS30とベンレートTコートを使用する際は、先に「クルーザーFS30」を塗沫処理し、乾燥させた後に、「ベンレートTコート」を処理します。

4 播種

播種適期は11月20日~12月5日です。10a当たりの播種量は、適期播種の場合6~7kgです。遅播きの場合は、3割程度増やします。なお、大豆後作の場合は、水稻後作の場合より10aあたり1kg程度播種量を減らします。

5 施肥基準 (10a当たり)

大豆後作の場合は、水稻後作に比べ地力窒素の影響が大きいいため、基肥を減らします。ちくしW2号はタンパク質含有量向上のため、必ず穂揃い期追肥を行います。

品種名	基肥	追肥	
		1回目	穂揃い期
シロガネコムギ	ちくごのめぐみ444 40kg (大豆あとは20kg)	麦追肥一発2号 40kg	—
ちくしW2号	ちくごのめぐみ444 40kg (大豆あとは20kg)	硬質小麦専用追肥 (3004) 30kg	尿素4kg×2回 (水100l)

6 雑草対策

1つの除草剤だけに頼らず、体系的な処理を行きましょう。

	薬剤名	処理時期	10a 当たり 使用量	10a 当たり 希釈水量	留意事項
茎葉 処理 剤	ラウンドアップ マックスロード	播種前 または 播種後出芽前まで	500ml	50 L	・必ず土壤処理剤も 散布する ・飛散防止に注意す る
	バスタ液剤		500ml	100L	
土壌 処理 剤	リベレーター フロアブル	播種後～麦3葉期 (雑草発生前 ～イネ科雑草1葉期まで)	60～80ml	100L	・土壤が湿りすぎていると効果むらや薬害の原因になることがある ・まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない
	リベレーターG (細粒剤)	播種後～麦2葉期 (雑草発生前 ～イネ科雑草1葉期まで)	4～5kg	—	

※ラウンドアップマックスロードとリベレーターフロアブルを混ぜると、成分が沈殿するため混用はできません。

- 県では、様々な収入減少リスクに対する備えとして、**収入保険**への加入を勧めています。
- ～「慣れ」と「油断」が事故を招きます～
- ”安全”な農作業と農薬使用を徹底しましょう！